

# トウクトウク 荏原桜史跡コース



## トウクトウク出発時刻表

【荏原桜史跡コース】所要時間：40分（乗車定員：9名） 6.2 Km

時間	時間	時間	時間
① 9:10	② 9:50	③ 10:30	④ 11:10
⑤ 13:00	⑥ 13:40	⑦ 14:20	

## 八幡の金平狸

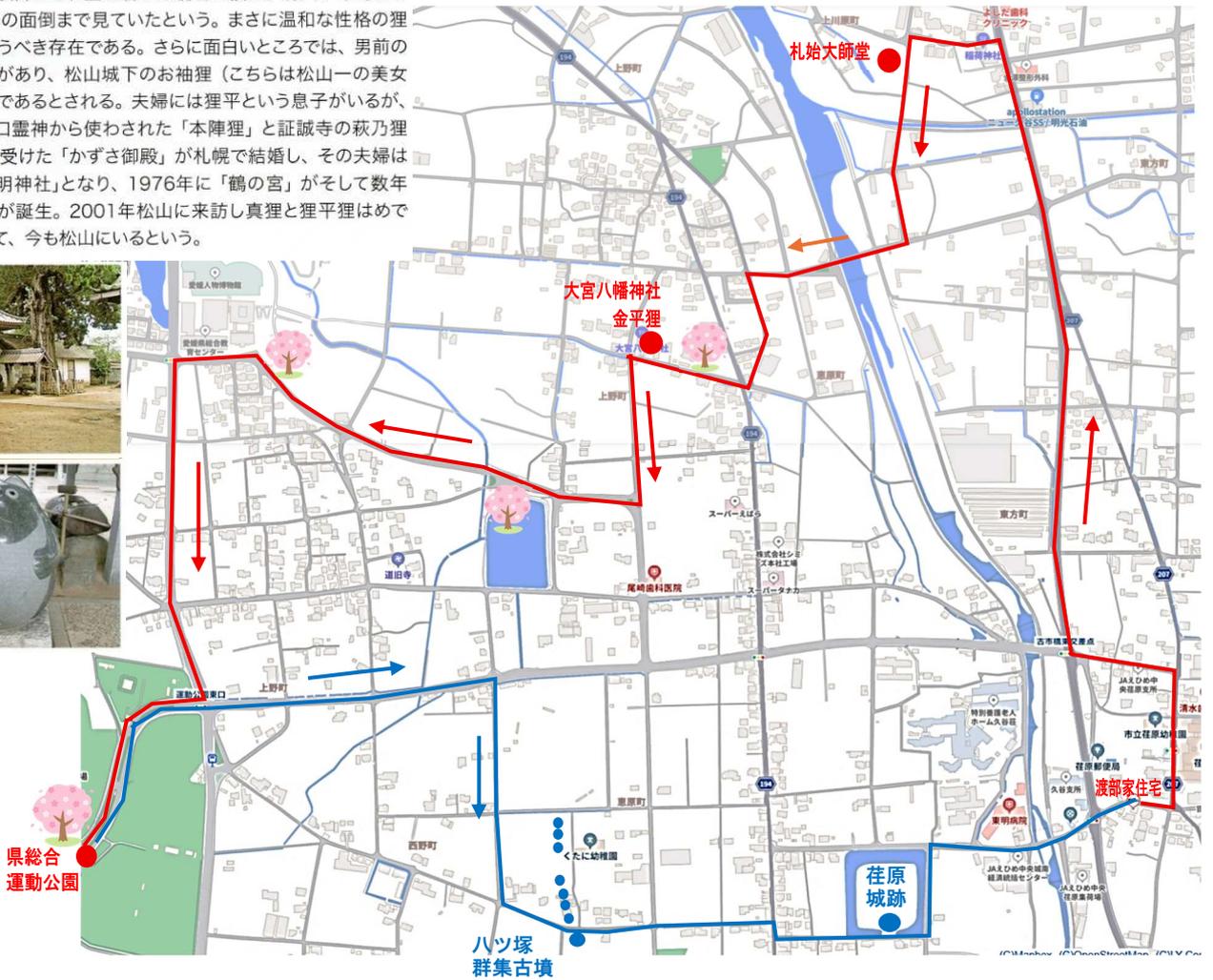
金平狸は、八百八狸の総帥である隠神刑部狸（いぬがみぎょうぶたぬぎ）の直系狸と言われており、別の法名を金森（かなもり）大明神といい、大宮八幡神社の境内にあるイブキビヤクシンの樹下に“金森大明神”として鎮座している。大宮八幡神社の大宮司家に仕える狸であり、その忠誠ぶりは、宮司が松山の城下から暗い夜道に戻っていると、いつの間にか神社の紋の入った提灯が先導して道案内したという伝説が残るほどである。そして伊予随一の学者狸とされ、読み書き算盤を得意としていたとされる。それ以外にも、里の者にも親切に接し、病人や年寄りの世話や迷子の面倒まで見ていたという。まさに温和な性格の狸の代表と言うべき存在である。さらに面白いところでは、男前の狸という噂があり、松山城下のお袖狸（こちらは松山一の美女狸）と夫婦であるとされる。夫婦には狸平という息子がいるが、1973年山口霊神から使わされた「本陣狸」と証誠寺の萩乃狸一族の霊を受けた「かざさ御殿」が札幌で結婚し、その夫婦は「本陣狸大明神社」となり、1976年に「鶴の宮」がそして数年後「真狸」が誕生。2001年松山に来訪し真狸と狸平狸はめでたく結ばれて、今も松山にいるという。



県総合運動公園

## 札始大師堂

その昔、弘法大師が水の多い重信川を渡るとき、ふと文殊菩薩が現れ「この地域は仏を崇めないものが多い。汝仏法を説くがよい」と仰せられ、急ぎ庵を建てたのがこの場所だといわれ、ここを拠点にして各地を回る。一方、自分の悪行により子供を亡くした衛門三郎は、弘法大師にお詫びを言うべく大師の木像を前に決意をし、木札に自分の名前を書き、巡礼装束に身を固め、名札をこの庵に置いて四国巡礼の旅に出た。このため、ここを「札始大師堂」という。



## 八ツ塚群集古墳 恵原町

松山平野の南丘陵部、恵原町と西野町の境付近に位置する8基の群集古墳である。

墳丘の形は、直径約7mから14mの円墳と、一辺10mをやや超える程度の方墳が半数ずつある。石室は横穴式石室と推察され、時代は古墳時代終末と考えられている。八ツ塚は、現在は祭礼に使われたと推察されており、四国遍路の元祖といわれる衛門三郎の8人の子供を祀ったとの伝説もあり、塚の頂に小祠が置かれ石地藏が祀られている。



## 荏原城跡

昭和25年10月10日指定

荏原城跡は、重信川の支流御坂川に沿う恵原の平地に築かれた中世の平城の遺跡である。築城の年代は不明であるが、建武2（1335）年から同3年にかけて、忽那（くつな）氏が「会原城」で戦った記録が『忽那一族軍忠次第』にある。河野氏の重臣平岡氏の居城で、土佐からの侵入を防ぐ拠点であった。天正13（1585）年豊田秀吉の四国統一により、荏原城も平岡通倚（ひらおかみちより）を最後の城主として廃城となった。城跡は方形の平地で、高さ5mほどの土塁を周囲に築き、その外側に堀をめぐらせている。堀の幅は北側20m、西と東は14m、南は10mで、長さは東西130m、南北120mである。土塁の内側に居館が構築されていたものと思われるが、現在は畑、林となっている。また土塁の北側には戦に使う矢竹が現存する。

